

成果の説明書

(氏名) 黒崎 龍悟	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><研究></p> <ul style="list-style-type: none">・ 研究内容①<ul style="list-style-type: none">・ アフリカ、とくにタンザニアの農村におけるフィールドワークをとおして、地域の内発的発展のプロセス解明と支援を大きな研究テーマとしている。近年では以下に示す外部資金をもとに、とくにエネルギーの地産地消を軸にした循環型資源利用のモデルづくりや適正技術の普及に関する研究に取り組んでいる。平成 29 年度は、これまでの研究内容を継続する形で、タンザニア農村における、自然資源の利用および、それを取り巻く住民組織の動向について調査研究を実施した。現在はデータをまとめながら論文等の執筆を進めている。・ 科学研究費補助金若手 B「農民グループ・ネットワークをとおしたイノベーション普及に関する実証的研究」(代表)・ 科学研究費補助金基盤 A「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(分担)・ トヨタ財団共同研究助成「タンザニアにおける小型水力発電と住民交流を基盤とした環境保全に関する実践的研究」(代表。2017 年 4 月に完了)・ 研究内容②<ul style="list-style-type: none">・ 群馬県、とくに赤城山麓周辺における小規模自家水力発電の歴史に関する調査に着手した。戦前、戦後の小規模な発電事業の実態についてフィールドワークをとおして理解を深め、現在の分散型エネルギー／地産地消型エネルギーの議論に結び付けて考察したいと考えている。・ 出版物<ul style="list-style-type: none">・ 故掛谷誠・京都大学名誉教授(アフリカ地域研究、人類学)の著作集『第 1 巻人と自然の生態学』(京都大学学術出版会)の編集委員として発刊に携わった。・ 研究報告等<ul style="list-style-type: none">・ 学内の経済学会の研究会において研究発表(「アフリカにおける開発支援の評価・モニタリングに関する一視点―支援の複合的状況に着目して―」)をおこなった(2017 年 7 月 5 日)。 <p><教育></p> <ul style="list-style-type: none">・ 授業のアンケートでは、映像資料の活用を望む声が多くあったため、学生たちの関心や理解が深まるようにパワーポイント資料と映像資料をバランスに配慮しながら使用するようにした。また、フィールドワークで得られた現地の最新の成果を取り入れて、授業内容を更新することに努めた。 <p><学内業務></p> <ul style="list-style-type: none">・ 自己点検・評価委員会のメンバーとして、アドミッション・ポリシーやシラバス作成などについての検討に参加した。・ 国際学科に興味を持ってもらうよう、1 年生向けに、学科選択ガイダンスや学科選択相談コーナーなどで国際学科の内容説明と PR に努めた。 <p><社会貢献></p> <p>以下に示す市民講座等で研究の社会還元、研究内容の情報発信に努めた。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高崎経済大学地域科学研究所 第34回(2017年度)高崎経済大学公開講座「現代社会への多面的アプローチ」における講演「アフリカ農村にみる環境利用の知恵」(高崎経済大学、10月5日) ・ 平成29年度東京都北区中央公園文化センター公開講座『サハラ以南アフリカへのいざない～歴史・文化・生活～』における講演「東アフリカ・インド洋に開かれた世界～」(東京都北区中央公園文化センター、10月15日) ・ 第10回東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター『ASC)セミナー(公開講座)』における講演「アフリカの器用仕事に学ぶ」東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、12月18日) ・ ラジオ高崎のラジオゼミナールにおける話題提供。市民に向けて自分の専門分野のことなどを紹介した。(7月14日・7月21日) ・ NHK world radio Japan (スワヒリ語)における話題提供。東アフリカのスワヒリ語圏に住む人びとに向けて、日本に関する話題や、アフリカでの調査研究の内容を紹介した。(NHK、12月18日) ・ 写真展『アフリカン・ブリコラージュ!』のコーディネーター。特定非営利活動法人アフリック・アフリカとの協力の下、アフリカの人びとのモノづくりの知恵を広く日本社会に発信するため、同法人のメンバーが所属する8大学と協力し、各キャンパスを巡回する写真展を計画・実施した。(2016年10月25日～2017年6月6日)
<p>2 その他の事項 特になし。</p>
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に関しては、引き続き国内外でのフィールドワークを継続するとともに分析、論文執筆を進めていく。歴史的な視点を深めるためにも、文書館等を活用しながら文献調査にも力を注いでいく。 ・ 教育に関しては、講義形式の授業においてもコンパクトなワークを取り入れながら、より双方向的な内容を目指す。国際学科が本格的に始動することになるので、今年度以上に学科やゼミ運営を盛り上げていくよう努める。 ・ 引き続き、研究の社会還元として、新たに得られた知見を公開講座などの場をとおして積極的に社会に発信していく。